



# オリーブ通信

2023年  
4月号  
2023.4.15.発行  
第253号

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu/>

あたららしい生徒さんです

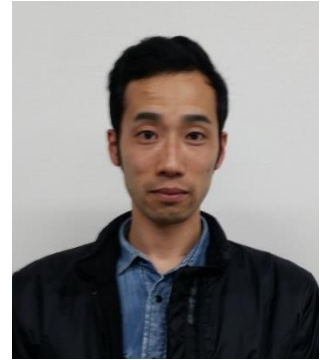


キン・ミヤトウ  
(ミャンマー)



ダカナイ・レイマト  
(フィリピン)

あたららしい先生です



永田雄太 先生

外国籍の方たちが日本語を学ぶお手伝いをできたらと思いい入会しました。

## 中川先生のへんてこ日本語

151

辞めることにしました

筆者の勤務先で非常勤として日本語を教えている教え子からメールが届いた。「〇〇を辞めることにしました。」これはただ事ではないと思いい、「辞めることになったのですか。4月以降はどうするのですか。」と返信した。

こんな時は、「〇〇を辞し、△△で働くことになりました。」などとしてほしい。「辞めることにしました」となると、何か腑に落ちぬことでもあったのかと、心配になる。日本語では、自然の成り行きとして「そうなった」型表現が好まれる。

かつては、「結婚することになりました」という招待状が届いたものだが、最近は、「私たち、結婚しました」型の挨拶の届くことが多い。たとえ事後処理であっても、知らせてきたらまだいい方である。

「なりました」では、準備期間を経て、めでたく結婚に至った感が強いが、「しました」では、あくまでも両人の意思で決めた感が強い。先の「辞めることにしました」でも、何らかの不都合が生じて、辞めることに「決めた」という強固な意志が働いている。

「XXで働くことになりました」/「XXで働くことになりました」でも、前者には、厳しい就職試験を突破した意が感じられるが、後者には、あまりにも我が強く出すぎている。

「これにてお開きとなります」「応募者多数の場合は、抽選となります」など、きわめてソフトで、気に障らない。自己都合ではなく、自然の成り行きとして表現してほしいものだ。

今日はこの辺で終わりにいたします。



京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

# 先生たちのリレーエッセイ

## 2022年度の日本語専攻ツアーをご紹介します！

みなさんこんにちは！桑原葵です。

以前(といってもだいぶ前ですが笑)、私がオリーブ通信で日本語専攻ツアーについてご紹介したことは覚えていらっしゃるでしょうか？

今年の2月に3年ぶりに日本語専攻ツアーに参加してきたので、その様子をご紹介したいと思います！



日本語専攻ツアーについてももう一度簡単にご説明させていただきます！日本語専攻ツアーは、私が所属する日本語専攻が毎年独自に開催しているプログラムです。海外の日本語教育機関を訪問し、現地で日本語を学んでいる学習者と交流します。これまでに私は3回ツアーに参加してきました。2019年にはタイ・ミャンマー、2020年にはブラジル、そして今年はタイとインドに行ってきました。期間としてはタイに2週間、インドに1週間滞在し、合計で5つの日本語教育機関を訪問してきました。今回私はツアー経験者、そして最高学年のリーダーとしてツアーに参加しました。大学の先生と共に日本語教育機関と連絡を取り、ホテルの予約などスケジュール管理などを行うことは大変でしたが、今は無事にツアーを終えることができ安堵の気持ちがあります(笑)。

私の今回のツアーの目的は、大きく二つありました。一つは日本語専攻の後輩達に日本語学習者と交流することの楽しさを知ってもらい、日本語教育について少しでも興味を持ってもらうことです。今回、1年生から4年生まで7人の後輩が参加してくれましたが、将来日本語教育に携わろうと考えている人はほとんどいませんでした。私は1,2年生のときにツアーに参加し、自分の大学生活やそれ以降の進路について考えが変わるきっかけになったので後輩達にとってもそのような機会になればと思いました。二つ目は、インドの日本語教育機関に行くことです。私は約2年半、オンラインでインド人に日本語を教えてきました。お世話になった機関に訪問し、対面授業の様子やインドの学生にもっと日本や日本語を好きになってもらえればという思いがありました。



以前のオリーブ通信ではタイについてご紹介したので、今回はインドでの様子を書きたいと思います！インドでは最初の3日間は授業見学をさせていただき、4日目には文化交流会、5日目にはエクスカージョン(遠足のようなものです)、6日目にはタージマハルへ行きました。

文化交流会では、私たち日本人が教科書には載っていない日本文化について劇を披露(私達はこれをスキットと呼んでいます)したり、日本の昔遊びを発表したりしました。スキットは毎年ツアーでグループごとに披露するのですが、今回のテーマは「『甘い』の使い方」と「相槌」の二つでした。それぞれ簡単にご説明します。「『甘い』の使い方」は、食べ物・飲み物が甘いという他に、顔や言葉があまい、考えがあまい、などの使い方があります。学習者は基本的に食べ物・飲み物の「甘い」は知っているのですが、その他の使い方もあります！ということを知ってもらおうと思いました。「相槌」に関しては、話を聞くときに日本人は声を出したり、顔を動かしたりして相手の話をしっかりと聞いているということをアピールする、また相槌が多すぎてもいけない、ということを発表しました。特にインドでは「Yes」のときの顔の動きが日本とは異なるので、インド人学生も面白がってくれたのではないかと思います。



日本の昔遊びでは、けん玉を紹介しました。これが意外にもインド人学生に好評で、けん玉を6個持って行ったのですが取り合いになるほどで、最後には急遽けん玉大会を行うことになりました！一発で成功させる学生も多くいて、その習得の早さにびっくりしてしまいました(笑)

その後私達はソーラン節を踊りました。私達のパフォーマンス後に一緒に踊りたいという学生が数名前に出てきてくれ、ソーラン節をリピート、そして文化交流会の最後にはインドダンスをみんなで踊って締めくくりました。インドのステップを教えてくれたときのインド人学生の表情はいきいきとしていて、彼らのそんな表情を見られてとても嬉しかったです。

大好きなインドという国で、私が長い間お世話になった機関で、インド人学生と日本人学生が交流している様子を見て、私は幸せな気持ちでいっぱいでした。インド人日本人学生双方にとって、今回のイベントが楽しかった記憶として将来ふと思い出すようなものであってほしいと心から思いました。

私が3回ツアーに参加してきて毎回思うのは、ついこの間までは外国にいて名前も知らなかった人達と出会い、彼らが日本語を勉強し始めた背景や日々の生活を聞き、その存在をお互いに認められることの貴重さです。日本から遠く離れたところで、日本が好き、日本語を勉強したいと思ってきている人がこんなにも多くいるということは本当に幸せなことだと感じます。そして彼らが日本に来たときがっかりされないように日本を大切に、愛していくことこそが私達に求められることなのだと思います。



以上、日本語専攻ツアーについてご紹介しました。このオリーブ通信で私はオリーブを退会しますが、陰ながらオリーブの活動を応援しております！今まで本当にありがとうございました。

## オリーブが第11回おうみ社会貢献賞を受賞しました!

3月16日(木)、恩地さんが代表として表彰を受けました。

「おうみ社会貢献賞」は滋賀県内で地域に密着した社会貢献活動に取り組んでいる民間の団体や個人を表彰し、共同のまちづくりへの意識を高めまちの活性化に寄与することを目的とし、公益社団法人滋賀県市町村振興協会がおこなっています。

オリーブは「住民自治」の分野で、在住外国人が生活や仕事をする上で欠かせない日本語を学ぶ場を提供し、在住外国人の地域社会での円滑な生活を支援してきた点が評価されました。

第1回からの受賞者を見てもオリーブの30年近い活動の継続は特筆に値します。長年オリーブの活動を支えてくださった皆様、ありがとうございます。そして、これからもがんばりましょう!





## 先月の活動（3月）

日本語教室 3/4,11,18,25(M) (4回)  
 3/5 (日) BNN 外国人による日本語スピーチ大会  
 (田中英・渡辺・福井)  
 3/16 (木) おうみ社会貢献賞授賞式 (恩地・福井)  
 3/26 (日) オリーブお花見 (雨天のため中止)

- 日本語教室の(M)は定例ミーティング
- ( )内は参加者、または 参加予定者。敬称略



## 今月の活動予定（4月）

日本語教室 4/1,8,15,22(M) (4回)  
 4/1,8,15 (土) オリーブ役員会  
 4/2 (日) オリーブお花見  
 4/6 (木) KIFA 理事会 (恩地)  
 4/15 (土) 会計監査 (内田幸、杉山美)  
 4/28 (金) おうみ社会貢献賞受賞を草津市長に  
 面談報告 (恩地)



## 参加人数（3月）

	3/4	3/11	3/18	3/25
学習者	22	18	22	19
スタッフ	27	22	22	22



## 会員の動き

〈入会〉永田 雄太

〈退会〉河村 康将



# お花見に行きました！ 山科駅～疎水～本圀寺～御陵～蹴上

お花見は当初3月26日の予定でしたが、雨のため4月2日に延期されました。  
 4月2日は晴天に恵まれ、生徒さん9名、先生10名が参加しました。

田中先生のガイドで疎水の桜を見ながら本圀寺の金色の鳥居を見学し、御陵(みささぎ)から山に入り、お弁当を食べて蹴上(けあげ)まで歩きました。その後、琵琶湖疎水蹴上出口に出て、インクラインの桜トンネルを歩いて琵琶湖疎水記念館で休息し、解散しました。



参加者のコメントです。

- 「疲れたけど楽しかったです(中国)」
- 「気持ちいいです(中国)」
- 「初めての花見は、みんなと一緒に本当に良かったです。こんないい景色が山の中にあるとは、自分ではどんなに探しても見つけれないかも(中国)」



「花見したり、山登りしたり、みんなでお話したりするのはとても楽しかったです。今日は本当にありがとうございました(ミャンマー)」

「今日は楽しかったです。景色がきれいでした。今年は初めて花見をしました。(インドネシア)」

「あと一週間で77歳になりますが、無事完歩できて自信が持てました。皆様のおかげで家内が日本を勉強できて感謝申し上げます。これからも宜しくお願いいたします。(日本)」

